

## 第5回西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会 意見のまとめ

### ■活性化ビジョンのまとめ方についての意見

- 住むにしても何をするにしても、他所にはない「西京らしさ」を創り上げることが重要である。
- 個性的な地域があるのが西京区の特徴であり、もっと固有名詞や、地域ごとの問題を出すべきではないか。
- 「私はどう考えるか」「私自身がどうするか」と言った一人称の問題で考えることが重要である。要望を集めたビジョンにするのではなく、一人称の議論を中心にピックアップする方がよい。
- 複数の重要な問題を関連づけてキーワードを見つけ出し、ビジョンに組み込むことで、オリジナリティがもっと出せるのではないか。

⇒現状・課題の整理や施策の方向性において、できるだけ固有名詞や地域課題を取り上げるようにした。  
⇒住民自身の取り組みの推進もイメージした施策の方向性を検討した。

### ■活性化ビジョンの推進についての意見

- ビジョンは達成できる内容にし、誰がいつまでに成し遂げるのかというものにする必要があるのではないか。
- 大事なのは行動することで、具体的な地域特性や様々な意見を入れて実施計画を明確にすることが重要である。ビジョンには具体的な行動まで落とし込めないが、思いを共有できることが大事である。
- 次年度は西京区にとって40周年という1つの区切りであり、色々な形でチャレンジする40周年にしても良いのではないか。

### ■中間報告についての意見

- 「西京区に住んでいる人はこういうことを思っている」という、今まであまり前に出てこなかった部分をもっと前に押し出した中間報告になると良い。

### ■前回懇談会での意見（前回資料の4つの柱建てについて）

#### ①「人とひとびと、地域の活動がつながるまち」に関する意見

- 大原野とニュータウンの間もっと近くで交流できるようにしなければならない。
- 住民自身が最終的に地域外の人たちに魅力を伝えられるだけの交流も含めた仕組みがきちんとできているかどうかということが重要である。
- 住民自身が魅力を十分に分かった上で、交流ができているのかどうか。定住させられる仕組みがなければすぐに出て行ってしまう。
- 「地域の活動がつながるまち」としては、その地域の方々が自分たちのためだけではなく、全体の最適のために色々と連携できるような仕組みが必要である。
- つながることは大切であるが、どうすればつながるのかということについてのビジョンを示す必要がある。
- もう少し、クローズアップすべきテーマが出て良いのではないか
- 小さい頃から子どもが地域と関わって、親自身がそこで生きがいのある生活をするのが将来の定住につながるのではないか。

⇒大原野と洛西ニュータウンをはじめとして、地域間のつながりの大切さについて整理した。  
⇒身近な地域や関係の中でのつながりを大切にす視点を位置づけた。  
⇒子どもや若者が地域とのつながりをもつことの大切さを位置づけた。

## ②「地域の資源を活かした産業・雇用が生まれるまち」に関する意見

- 働く場がなければ若い人は決して来ない。単に住むだけのまちになると、地域も冷え込んでしまう。色々な産業を興していくことが重要である。
- ビレッジフェスでは出店者もすべて西京区の方で、これまで知らなかった店の情報が一人ひとりの体験をもって知られた、良い祭りであった。一人ひとりの活躍や美味しいお店を知るためには情報誌があってもよい。
- 私自身西京区の住民だが、西京の魅力はまだ十分に分かっていない部分がある。
- 「道の駅」や「地産地消」等のキーワードも盛り込んでよいのではないかな。
- インキュベーション施設から、実際に自立して活動する場が重要であり、立ち上がった企業を立地させるスペースが重要になる。そういう面で芸大の跡地は重要になる。

## ④「京都の西の玄関口としての魅力・機能を備えるまち」に関する意見

- 西京区は西の玄関口としてのハブ的な機能がある。外の人たちを引き込むために魅力の要素を整理して「何をしなければならないか」を考える必要がある。
- バスの均一料金も1つのキーポイントである。
- 玄関であることを特に強調しなくても、色々な意味で交通の要衝になっていて、色々なところから人・モノ・情報が入って来るといふ状況をどう活かして、ここで仕事を生み出すかということ考えた方が良いのでは。
- ②と④を一つのテーマとして産業や雇用の問題と考えた方が、ビジョンとしてはより明確な方向性が出るのではないかな。

⇒②と④と統合して「仕事」を生み出す視点を検討した。

⇒まずは区民自らがまちの魅力を知ることが大切である視点を位置づけた。

⇒西京区・洛西ならではの様々な資源(大学・人材・農業など)や交通アクセスを活かした仕事づくりの視点を位置づけた。

⇒まちの資源や人材を活かし、課題を解決するコミュニティビジネスの視点を位置づけた。

## ③「子育て世代に選ばれるまち」に関する意見

- 洛西ニュータウンに何か特徴づけることで若い人を呼び戻せるのでは。例えば、ペット限定の市営住宅、若者向けシェアハウスなど。建替えではなく、趣味などで集まるような特徴的な住宅とすることも考えられる。
- 魅力のある子育てのできる学校がポイントになるのではないかな。例えば、インクルーシブ教育等。
- 子育て世帯が移り住んで、空き住宅やマンションの空室も上手く活用できる方策が必要である。
- 教育もテーマを打ち出せることが必要。西京区の資源を活かす中でテーマを明確にすることが重要である。
- 子育てについては、教育の話だけではなく、幅広く子どもの成育環境の問題として考えた方がよい。
- ニュータウン自体がその人にとって生まれ育った場所であり、かけがえのない故郷になっている。
- 若者の行動はもっと深く考えなければならない。一気に1つの話に括ってしまわない方がよい。
- 子育て世帯ということだけではなく、高齢者の問題も少し入った方がよいのではないかな。
- 高齢者に子育てを手伝ってもらするなど、まちぐるみで3世代同居のような形になるとよいのではないかな。
- 「高齢者」「自然」「子ども」を結び付ける論点として、「健康」というキーワードに着目しては。
- JRの桂川駅周辺のエリアで暮らす若い世代が、休みの日に大原野界隈に遊びに来るような吸引策を具体的に考える。緑豊かでピクニックもできるし、美味しいお店もあるといった魅力をアピールしてはどうか。桂川駅、洛西口駅をもう少し大きく捉えた方がよい。
- 同じ「若者」でも「流動層としての学生」「子どもを育てる父親、母親」では意味が違うので、「若者」の中身について深掘りした方がよい。

⇒子育て世代だけでなく、西京区ならではの魅力的なライフスタイルを実現する柱建てとして再整理した。  
⇒そのために特徴的な住宅の供給，自然環境を活かした子供の成育環境，歴史・文化などを取り込んだ，  
都心部では味わえない個性あるライフスタイルをイメージして施策方向性などを検討した。  
⇒西京区・洛西地域の豊かな暮らしを充実させる視点として交通問題を位置づけた。

## ○芸大跡地に関する意見

- 文化庁を京都に誘致するという話があるが，誘致する場所として芸大跡地では狭いのか。
- 芸大跡地は西の玄関口という位置づけで，若い人の雇用を促進するためのものを考え，その人たちの住宅はニュータウンもあるという考えを進めていけばと思う。
- これまでの意見としては，産業・雇用の活性化や，芸術・アート等がキーワードとして出されている。
- 跡地を箱モノと考えるのではなく，全体として考えていくためには，西京区全体がこれを機会として，皆が良くなることを考えていかなければならない。
- 「芸大跡地をどうするのか」という議論をこの会議で行うのか，行く末が分からないのが多少不安である。